

2007 年度

科目名 美術鑑賞法	対象学科・学年 文学部日文1回生	担当者 江村 公
授業テーマ 「美術館に足を運んで作品を見る」		
授業の概要と目標 日本における西洋近代美術コレクションの成立を出発点に、美術館で作品を鑑賞する上で重要な19世紀半ば以降から第二次世界大戦前までの美術の展開を理解することを目的とする。また、「美術館」という場所の役割と、西洋近代美術と日本美術との関わりにも着目する。授業では、美術館や美術作品に関わる映画の鑑賞も組み込み、また、自由参加の課外授業で展覧会を見学する予定である。昨年度は京都国立近代美術館の「藤田嗣治」展を見学した。		
評価方法 出席点50%、学期末レポート50%で評価		
テキスト 特になし	著者	出版社
参考書 授業中に指示する	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1、はじめに——「松方コレクション」と「大原美術館」 2、リアリズムと現代性（モデルニテ） 3、印象派1——「人物画」を中心に 4、印象派2——「風景画」を中心に 5、後期印象派の作品について 6、ピカソとマチス、キュビズムとの関わり 7、未来派 8、抽象絵画の成立 9、ロシア・アヴァンギャルド 10、ダダイズムとシュールレアリスム 11、「洋画」と「日本画」との対立 12、「大正新興美術」——日本のアヴァンギャルド 13、矢内原伊作とジャコメッティ 14、課外授業（美術館見学） 15、まとめ——戦後のアートへ		